

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月15日
函館市立高丘小学校

1 本年度の重点教育目標

「気づき 考え 行動する子」 — 自己肯定感をもち、お互いを認め、高めあえる児童を育てる教育活動の創造 —
--

2 本年度の取組の重点

① 確かな学力の向上 ②豊かな心と健やかな体の育成 ③ 地域に根ざし信頼される学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力の向上を図る教育活動	学習意欲を高める授業づくりのため、授業に集中させるための授業形態の工夫と ICT 機器の有効活用を図ることができたか。	a	主体的な学びとなるよう少人数指導や一人一台端末等の ICT を効果的に活用することで学習意欲の向上につながっている。	A	A	落ち着いて授業に向かう子供たちの姿から、教職員の授業に対する工夫や努力が感じられる。
	学び合いが生まれる授業づくりのために体験的な学習や課題解決的な学習を通して思考力・判断力・表現力の向上を図ることができたか。	a	課題解決的な学習における学習過程の工夫により、学び合いの質が高められ、思考力・判断力・表現力の向上につながっている。	A	A	一人一台端末を活用して、児童が互いに学び合う姿からを目にし、ICTの活用をより一層進めてほしい。
② 豊かな心を育む教育活動	豊かな体験活動を通して、人としての生き方や他者との関わり方について考える教育活動の推進を図ることができたか。	b	ボランティア活動の体験活動の一部については実施できなかった。コロナの感染拡大状況を見て、可能な限り実施していく。	B	B	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、地域交流ができず残念だった。登下校時の児童の挨拶はいつも元気である。
	心に響く道徳教育を行い、いじめの未然防止等にかかわる教育活動の推進を図ることができたか。	a	「考え、議論する道徳」の実践に努めた。児童が自己を見つめ、自身の行動をふり返ることで、いじめの未然防止につながっている。	A	A	保護者・児童ともに思いやりや仲良く助け合う心の評価が高いことはすばらしく、様々な指導の賜と思う。
③ 健やかな心身を育む教育活動	体育の授業改善や休み時間の活用等を進め、体力の向上に向かう態度や能力を育てる教育活動の推進を図ることができたか。	a	児童調査で授業は楽しく能力が向上している答える比率が高い。縄跳び月間において運動に対する前向きな姿勢が見られた。	A	A	体育の授業で教職員の創意工夫が感じられる。縄跳び月間は今後も継続してほしい。
	自ら健康で安全な生活を営む態度や能力を育てる教育活動の推進を図ることができたか。	b	防災教育と丁寧な生活指導により、安全な生活への態度が高った。望ましい生活習慣の育成のため、家庭との連携をより図る。	B	B	望ましい生活習慣形成のために、家庭への呼びかけを今後も継続してほしい。
④ 学校における指導体制等の充実	重点教育目標の実現に向けて教職員が適切な役割を果たすとともに、相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。	a	校務支援システムを活用して連絡・調整を密にすることで教職員間の連携が深められた。	A	A	今後も教職員の連携を深め、よりよい教育活動を展開してほしい。
	働き方改革に向けて学校における業務改善の取組を進めることができたか。	b	働き方改革に向け、行事の進め方や会議の持ち方等の見直しを進めた。職員間の業務の平準化をより進めていく。	A	A	教職員の長時間にわたる時間外勤務を心配している。さらなる業務改善をすすめてほしい。
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティスクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	コロナ禍で書面開催となった会議があった。学校運営委員には、学校の様子をより密に伝えてご意見を頂戴していく。	B	B	コロナ禍が落ち着いたら、子供たちの様子を直接保護者・地域に見てもらえるようになるとうい。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。	a	保護者・地域の来校が限られる中、学校便りや学級便りをはじめ、各種通信を通して学校の教育活動や児童の様子を伝えてきた。	A	A	学校への来校が制限される中、学校便りや学級通信を通して、保護者・地域へ学校の様子がよく伝えられていたと思う。